

青嶺 Seirei

文責 田中泰司

伊万里市立青嶺中学校

新しい一年の始まり

少し遅くなりましたが、新年あけましておめでとうございます。のんびりとした年始ではなく、気が重くなる、心配事が多い一年の始まりになりました。

二期期の終業式で戦いや争いを止めるためには、まず身近な人を理解し、受け入れようという話をしました。元旦に発生した能登半島地震の状況が徐々に明らかになるなかで、始業式に子どもたちに伝えた内容を以下に紹介します。

どんな冬休みを過ごしましたか？私は娘が一週間近く寝込んだので、心配でゆつくりした気持ちにはなりません。家族が元気でいるのが「当たり前」だと思いついて、そうでない時に初めて「当たり前」のありがたさを感じました。石川を中心に北陸で大きな地震が起きました。

終業式で「さようなら」と言つて別れた友人が、始業式にはもうこの世にいない。今朝、あなたたちを迎え、挨拶を交わしながら、この日常の風景が決して「当たり前」ではないと改めて強く感じました。だから今日、元気に登校してきてくれて、本当にありがとう。心から感謝したいと思います。一日でも早く被災地が落ち着いた日常を取り戻すことができるように祈ります。

さて、二期期の終業式では自分の身近な人を理解し、受け入れる努力を自分からすること、皆が安心して暮らせる、平和な世の中をつくる近道だということを伝えました。

当たり前だと思っていたこの仲間たちとの日常はあと三か月足らずです。4月になれば転任する先生方も必ずおられます。今のメンバーと共に過ごせる日常や環境に感謝し、周囲を大事にし、次のステップにつなげる助走期間としてください。残りの三か月で一つでも多く、実行に移してみんなでより良い青嶺中学校をつくっていきましょう。

「となりの庭」

会社員時代、海外で働くことを希望していました。そのため世界中に拠点がある会社を選びました。

東京の本社では、週に一回、社員食堂で英会話スクールが行われていました。所属していた経理部は営業より時間の調整がしやすく、ほとんど毎回参加することができました。

希望していた部署ではなかった私は、不満を感じながら「海外に行くために経理部で我慢すべきか」「希望の仕事をするために会社を辞めるべきか」悩んでいました。

ある日のレッスンで、教師と二人だけになりマンツーマン指導を受けることになった際、他愛のない会話の中で、自分の悩みを打ち明けたらその先生から
The grass next door is green.

と一言。直訳すると「隣の芝生は青く見える」、外から見るとうらやましく思われているように見えがちだよ、という「戒め」の今このころで頑張れ！という彼からのエールでした。

すぐに切り替えられたか、といえはそうでもありませんでしたが、そっか…という気つきはありました。まずは目の前の仕事を全力で頑張ってみようと思えば、背中を押した一言です。

戦争について2

オーストラリア滞在中、湾岸危機が勃発しました。その後危機から湾岸戦争へと呼び名を変えて、テレビでは志願兵を募るCMが流れ、シドニー湾からは海軍の艦船がペルシャ湾に向けて出港するニュースが流れました。まさに戦時下です。

幸いにしてペルシャ湾に艦船が到着する前に、戦闘は終結し軍人のご家族はホッとしただろうと思います。戦時下のピリピリとひりつくような緊張感は忘れることができません。

その十年後、佐世保で勤務していた時、同じような紛争が勃発しました。同僚のALITは米軍属でした。「我々はやらなければ」と顔面蒼白で言っていた彼女の表情が忘れられません。

戦うことを職業として選んでおり、赴任先に家族同伴で来ていた彼らには戦いに反対する選択肢などなかったのです。その一方で佐世保には海上自衛官の家族が多く暮らしており、自分のクラスや部活動にも、父が自衛官という子どもがいました。

自宅に待機し出撃命令を待つ、出撃が決まればイージス艦に乗り込み砲弾が飛び交う戦地へと赴かなければならない。

海上には機雷が無数に浮いていて、その除去任務もある。どの任務も命がけで、再び生きて帰る保証はどこにもなかったのです。戦争の対義語は何でしょうか？「平和」ではありません。答えは「話し合い」です。戦争も話し合いも問題解決の手段なのです。平和の対義語は混乱でしょうか…？それは状態を表すからです。

国際社会において日本が国家として担う役割を果たすため、危険を冒して戦地に赴く人々を、その家族を身近で見ている、問題の複雑さと難しさを痛感します。正義は、大儀は、それぞれの国にあります。戦いという手段を選択する前に、どうにか理性的に話し合いたい。歩み寄れないか？人間には想像力がありますし、そこまで愚かではないはず。ウクライナ、パレスチナ…この愚行を止めるために考えること、知ることをやめなくてはならないと心から思います。

校長室より

二期期に全校集会で体験談を話しました。自分にとって辛い内容でしたが、生徒たちには伝えて、真剣に向き合い、考えてほしいのです。その後三年生からお手紙をもらいました。たくさん決意、感謝、励まし、アドバイスなど中には似顔絵のイラストを添えて生徒自身の正直な言葉で綴ってありました。話して良かったですが、感謝の言葉がうまく書けないですが、本当にありがとうね。